

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 10名

	所属・役職	専門分野等
1	北海道教育大学札幌校・教授	学識経験者
2	一般社団法人北海道医師会・常任理事	医療関係者（小児科医）
3	独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター・院長	医療関係者（がん専門医）
4	医療法人湊仁会手稲湊仁会病院（北海道看護協会）	医療関係者（がん看護専門看護師）
5	北海道保健福祉部健康安全局がん対策等担当課・課長	保健福祉関係者
6	北海道がん患者連絡会・副世話人代表	がん経験者
7	室蘭市立東明中学校・校長（北海道中学校長会）	学校長
8	北海道札幌北高等学校・校長（北海道高等学校長協会）	学校長
9	北海道札幌南高等学校（北海道養護教員会）	養護教諭
10	鹿部町教育委員会・教育長 (北海道町村教育委員会連合会)	教育行政

2. 開催時期、検討内容

第1回連絡協議会	令和6年9月5日（木）	オンライン	出席者 10人
〈説明〉 事業概要、令和6年度がん教育に関する計画 〈協議〉 「外部講師の活用促進に向けて」 ・がん教育におけるオンラインの活用 ・オンデマンド教材の充実や活用について			
第2回連絡協議会	令和7年2月5日（水）	オンライン	出席者 8人
〈説明〉 実践校、協力校における取組内容、がん教育研修会の開催状況、オンデマンド教材の作成状況について 〈協議〉 「今後の取組について」 ・取組内容の見直しの方向性			

② 教育委員会としての取組

1. がん教育実践校（以下、実践校という。）における取組の推進

- ・実践校として中学校1校、高等学校1校、計2校を指定

中学校	別海町立中春別中学校
高等学校	北海道本別高等学校

- ・保健体育科（保健分野・科目「保健」）におけるがん教育の充実を図るため、授業検討会議を2回実施
 〈ねらい〉 北海道におけるがん教育の推進に向け、学習指導要領に対応し、外部講師と連携を図った先進的な取組の指導計画及び指導案作成及び実施を支援する。

〈出席者〉 実践校のがん教育担当者、実践校を所管する教育局の担当指導主事

〈講師〉 新潟医療福祉大学健康スポーツ学科 教授 杉崎弘周 氏

第1回授業検討会議	令和6年10月4日（金）	オンライン	出席者 5人
〈内 容〉 ・説明「本事業及び実践校の役割について」（北海道教育委員会） ・講義「学習指導要領を踏まえたがん教育の進め方」（杉崎教授） ・交流「指導案や授業の構想について」			
第2回授業検討会議	令和6年12月24日（火）	オンライン	出席者 6人
〈内 容〉 ・説明「授業実践説明」（実践校2校及び外部講師） 「授業実践講評」（杉崎教授） ・協議・説明「がん教育研修会アンケート結果」（北海道教育委員会） 「今年度の成果と課題」（実践校2校及び外部講師） 「がん教育の推進に向けて」（杉崎教授） 「改善に向けた方策」（北海道教育委員会）			

2. 実践校及び外部講師活用協力校（以下、協力校という。）における外部講師と連携した取組の推進
- ・実践校2校のほか、協力校として2校を指定

協力校	外部講師 所属（職種等）	実施日・内容等
雄武町立雄武中学校	日本赤十字社 北見赤十字病院 副院長 (がん担当医師)	日時：令和6年12月4日（水）5校時（50分間） 対象：第2学年（計29名） 主な内容：「がん」という病気について 「がん」の要因 「がん」の予防方法について
北海道千歳高等支援学校	公益財団法人 北海道対がん協会 経営管理部 企画課 広報係長 (関連団体職員)	日時：令和6年12月12日（木）4校時（50分間） 対象：3学年（17名） 主な内容：体の基礎知識（細胞、細胞分裂） がんとは何か がんの早期発見の重要性 がんの予防方法について

3. がん教育研修会の開催

がん教育研修会	令和6年11月7日（木）	集合・オンライン	参加者 85人
〈参加者内訳〉 教職員等 62名、保健福祉部局 16名、がん経験者等 6名、協議会構成員 1名 〈内 容〉 ・説明「本道におけるがん教育について」（北海道教育委員会） ・説明「北海道におけるがんの状況について」 （北海道保健福祉部健康安全局地域保健課がん対策等担当課） ・公開授業「外部講師を活用したがん教育の授業」（北海道本別高等学校） ・実践発表（令和6年度中学校実践校、高等学校実践校、外部講師（がん経験者）） ・講演「「学校におけるがん教育の実践事例」 （新潟医療福祉大学 健康科学部健康スポーツ学科 教授 杉崎 弘周氏） ・交流・発表			

4. その他

- ・外部講師リストの作成・周知
- ・外部講師派遣の調整
- ・「学校におけるがん教育の手引」の作成・送付
「外部講師依頼の基本的な流れ」や事前打合せシートの様式を示し、外部講師リストの活用を促進
- ・「学校におけるがん教育の手引」及び外部講師リストをWEBページに掲載
<https://www.dokyoii.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/gannokyouiku.html>

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

専門機関等	連携内容
一般社団法人北海道医師会	外部講師リスト、動画教材作成
北海道がん診療連携協議会	外部講師リスト、動画教材作成
北海道看護協会	動画教材作成
北海道保健福祉部健康安全局がん対策等担当課	動画教材作成、「がん予防道民大会」学校関係者向けWEB配信の周知
北海道がん患者連絡会	外部講師リスト、動画教材作成、研修会の周知
北海道対がん協会	外部講師リスト、「がん予防道民大会」への地域高校生の参加等

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

実践校	保健体育科（保健分野・科目「保健」）指導計画及び工夫のポイント
別海町立中春別中学校	保健体育科・保健分野 第2学年 単元名「生活習慣病などの予防」（全5時間） 1 時間目：生活習慣病の起こり方について 2 時間目：生活習慣病の予防 3 時間目：がんという病気について（外部講師の講話）※対面 日時：令和6年10月8日（火）2校時（50分間） 講師：根室保健所兼中標津保健所 所長 4 時間目：がんの病気について詳しく知ろう 5 時間目：がんの早期発見と治療の実際 〈工夫 Point〉 がんの予防に適切な生活習慣の改善方法や早期発見、治療・回復の方法について調べ、わかったことやまとめたことを実生活に生かそうとすることができるよう身近な人にがん検診を受けてもらえるような「標語」、「キャッチフレーズ」を考える活動を行った。
北海道本別高等学校	保健体育科・科目保健 第1学年 単元名「生活習慣病の予防と回復」（全5時間） 1 時間目：がんの原因と予防 2 時間目：がんの回復と治療 3 時間目：講師の事前動画視聴 講師への質問内容検討 4 時間目：外部講師による講話（がん経験者）※オンライン 日時：令和6年11月7日（木）5校時（50分間） 講師：北海道がん患者連絡会 会員 5 時間目：講師による事後動画視聴 講師からの質問への回答配付 〈工夫 Point〉 オンラインでも講師と生徒の双方向性を確保するために、前時の講師からのメッセージ動画、事前の質問の共有、講話、本時の質問、グループ活動の共有、総括を通じてやりとりする機会を確保する。また、ホワイトボードアプリを使用して、グループ活動での協議を講師とリアルタイムで共有し、生徒の活動の様子について把握してもらった。



(3) その他

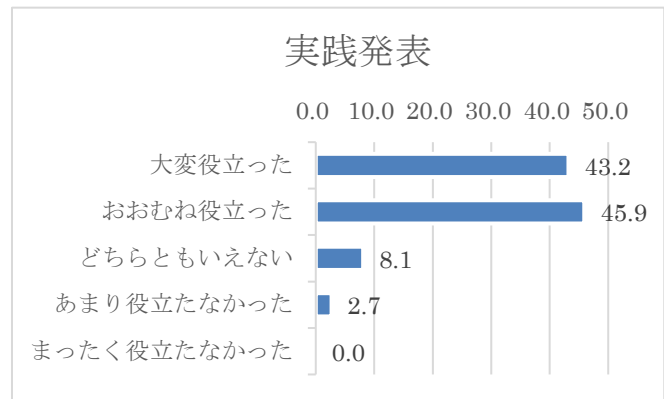
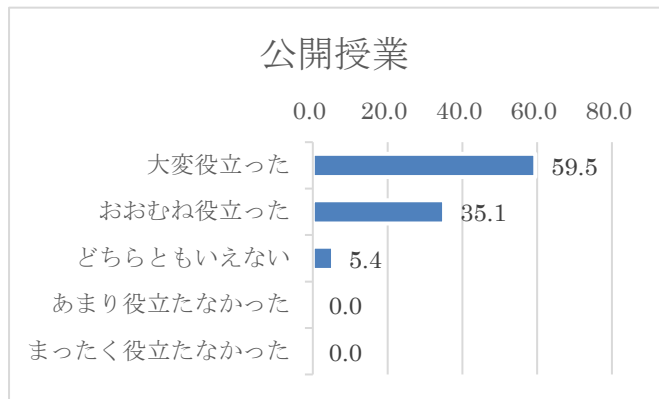
- ・がん教育オンデマンド教材の作成

授業で活用できる短時間の動画を作成し、学校内限定利用の動画として周知

令和6年度はがん看護専門看護師及び北海道保健福祉部健康安全局による教材2本を作成

2 事業の達成度について

- 外部講師と連携したがん教育の意義について教員の理解を促すため、「がん教育研修会」（北海道教育委員会）において、オンラインによる外部講師を活用した授業の公開を行ったところ、参加者アンケートでは、「大変役立った」「おおむね役立った」が合わせて 94.6%となり、「外部講師を活用したがん教育の授業のイメージができた」、「生徒が自分事として考えられる活動になっていた」、「双方向での講師と生徒のやりとりがよかった」など肯定的な感想が複数みられた。実践発表については、参加者アンケートでは、「大変役立った」「おおむね役立った」が合わせて 89.1%となり「学校と連携しながら、がん教育をいかに進めるか考えることができた」、「校種にあわせた指導を見ることで、それぞれの発達の段階に合わせた指導の参考にすることができました」、「それぞれの立場から経験を共有していただきありがたかった」などの感想があり、教員、がん経験者、保健福祉部局担当など、参加者がそれぞれの立場で、今回の実践校での取組が参考になった。



- 広域分散型の地理的特性をもつ北海道において、オンラインによる外部講師との授業実践を行ったことで、外部講師の派遣が難しい地域の学校においても、積極的な外部講師の活用が図られるよう、モデルケースをつくることができた。
- 「がん教育研修会」（北海道教育委員会）のアンケートにおいて、「がん教育に関する手引やオンデマンド教材が充実していることを知った」、「外部講師の依頼先があることを知った」などの記述があるなど、がん教育の手引やオンデマンド教材、外部講師リスト等が学校に浸透していないことが課題としてあげられる。同様に、今年度の派遣調整は実践校・協力校の4校にとどまったことから、外部講師活用派遣窓口等の周知方法を検討する必要がある。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- 外部講師と連携したがん教育を推進するために、その意義について、引き続き教職員の理解の促進に努めるとともに、本事業で作成した「がん教育の手引」、外部講師リスト等の周知を行うため、教職員対象のオンラインセミナーを実施する。また、北海道教育庁で実施する研修会等において、がん教育に係る情報提供を行う。
- がん教育の目標を達成するため、中学校及び高等学校においては、保健体育科を中心にがん教育の充実を図るとともに、学校保健計画に位置付け、計画的、組織的に推進する必要があることから、今後、これまでの実践校における保健体育科における指導計画や指導案等を学校に周知し、研修会等を通じて、各学校が実態に応じて効果的に活用するよう促す。